Canon

RF

24-50mm F4.5-6.3 IS STM

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF24-50mm F4.5-6.3 IS STMは、EOS Rシリーズカメラ用の標準ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- STMはStepping Motor（ステッピングモーター）の略称です。

本文中のマークについて

撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。

基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

カメラのファームウェアとカメラアプリケーションについて

お使いのカメラのファームウェアと、対応したカメラアプリケーションは最新のバージョンにしてください。それらの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

カメラ*のファームウェアが対応したバージョンでない場合、次の制限があります。
- 拡大表示できません。
- その他、カメラの動作に不具合が生じることがあります。

* 次のカメラにおいて
EOS R、EOS RP

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

⚠ 警告 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- **レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。**失明の原因となります。
- **レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。**レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

⚠ 注意 傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

- **製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。**製品に触れるとやけどやけがの原因となります。
- **製品の内部には手を入れないでください。**けがの原因となります。

一般的なご注意

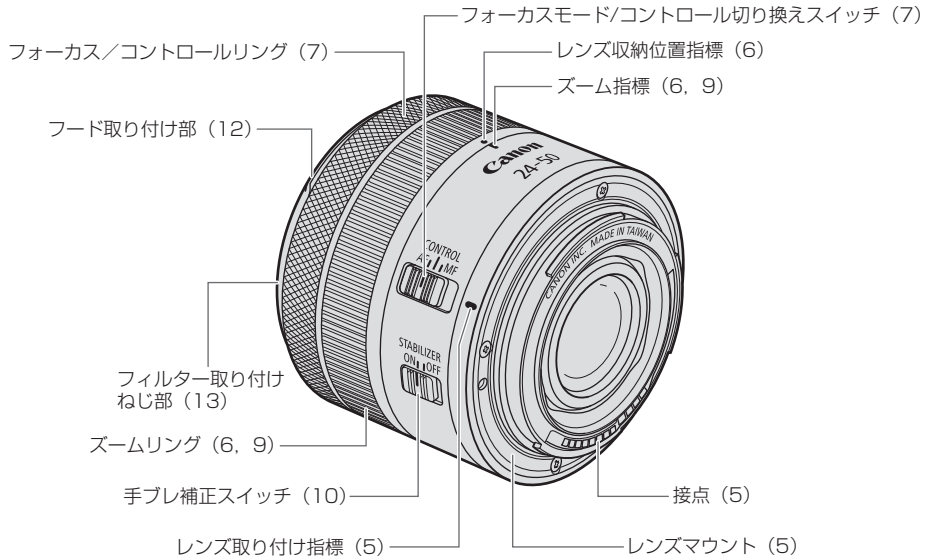
取り扱い上のご注意

- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- レンズの内部が揺れ動いて見えることがありますが、故障ではなく、使用上の問題はありません。
- 適切な絞り制御のため、絞り優先AEやマニュアル露出などの絞り数値を指定した撮影時であっても、ズーミングやピント合わせによって絞り羽根が動くことがあります。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

撮影上のご注意

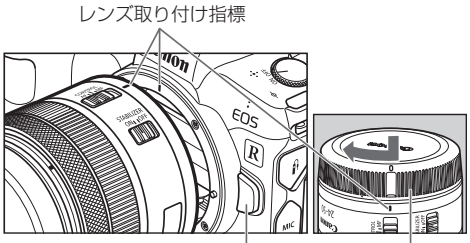
- オートパワーオフ状態から復帰したときは、ピント合わせを再度行ってください。
- 撮影準備状態でピント位置を保持するときは、カメラの設定で［オートパワーオフ］を［しない］に設定してください。

各部の名称



●（＊＊）の＊＊部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

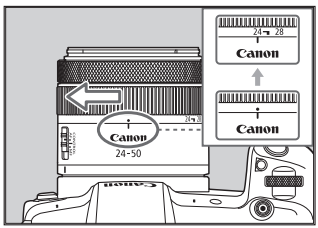
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
- レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
- レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
- 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。

2. 撮影の準備とレンズの収納

このレンズは収納機構を備えています。
収納状態では撮影状態よりもレンズの全長を短くすることができます。
収納状態では撮影ができません。
撮影をするときは次の手順で撮影準備位置にセットしてください。

収納状態からの撮影の準備



ズームリングを白い矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回して撮影準備位置にセットします。

● レンズ収納位置指標とズーム指標が合っているときは、やや力を加えてズームリングを矢印の方向に回してください。

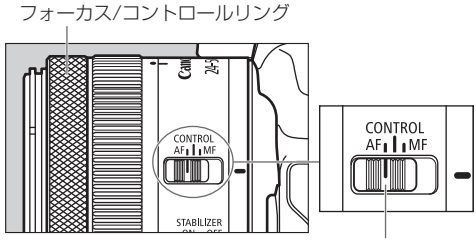
レンズの収納

1 撮影状態からズームリングを白い矢印の逆方向に回します。
2 ワイド端（24mm）を越えて更に回します。
3 端まで回し、レンズ収納位置指標とズーム指標を合わせて収納します。

● レンズの収納時、レンズの繰り出し部とフォーカス/コントロールリングの間に指などをはさまないように注意してください。

3. フォーカス / コントロールリング

フォーカス/コントロールリングは、フォーカスリング、もしくはコントロールリングとして使うことができます。



フォーカスリングとして使う

フォーカスモード/コントロール切り換えスイッチをAFもしくはMFにします。

オートフォーカス（AF）で撮影するときは、フォーカスモード/コントロール切り換えスイッチをAFにします。表*1

マニュアルフォーカス（MF）で撮影するときは、フォーカスモード/コントロール切り換えスイッチをMFにし、フォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）を回してピントを合わせます。表*2

表：フォーカスモード/コントロール切り換えスイッチの操作によるフォーカスモードとフォーカス/コントロールリングの機能一覧

	フォーカスモード/コントロール切り換えスイッチ		
	*1 AF	*3 CONTROL	*2 MF
フォーカスモード	AF	*4 AF/ *5 MF	MF
フォーカス/コントロールリングの機能	フォーカスリング	コントロールリング	フォーカスリング

コントロールリングとして使う

フォーカスモード/コントロール切り換えスイッチをCONTROLにします。表*3

コントロールリングの機能はカメラ側のメニューで設定します。シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てることができます。

コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

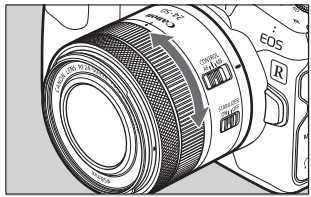
フォーカス / コントロールリング

- フォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）を急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。
- フォーカスモード/コントロール切り換えスイッチをCONTROLにすると、フォーカスモードはAFに固定されます。表*4
  ただし、使用するカメラにより、カメラ側でフォーカスモードをMFに切り換えることができます。表*5
  詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- このレンズのフォーカスリング（フォーカス/コントロールリング）は電子式です。
- 電子式フルタイムマニュアルフォーカス対応のカメラでは、ワンショットAF ／サーボAFの両方で、マニュアルフォーカスができます。ただし、カメラの設定変更が必要です。
- カメラのAF動作がワンショットAFのとき、AFのあとシャッターボタン半押しの状態で、マニュアルフォーカスができます（電子式手動フォーカス機能）。ただし、カメラの設定変更が必要です。
- 動画撮影時は、静止画撮影時よりもAFが遅くなります。動画サーボAFを［する］に設定すると、カメラ側でAF速度の調整を行うことができます。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

4. ズーミング

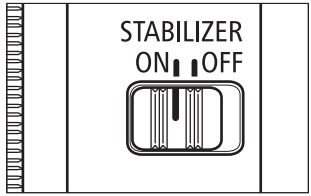


ズームリングを手で回してズーミングします。

- ピント合わせはズーミングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズーミングすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。
- ズーミングのとき、レンズの前側とフォーカス/コントロールリングの間に指などをはさまないように注意してください。

5. 手ブレ補正機能

撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じた手ブレ補正を行います。



手ブレ補正機能を使用するときは、手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正機能を使用しないときは、手ブレ補正スイッチをOFFにします。

- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 三脚を使用した場合は、手ブレ補正機能をOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

- ボディー内手ブレ補正機構搭載のカメラと組み合わせると協調制御を行います。

手ブレ補正機能

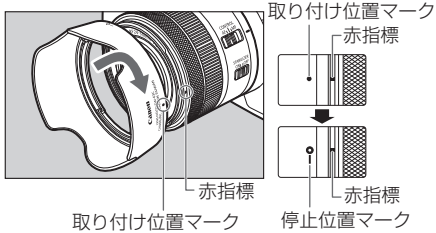
このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。

- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況

- 自動車や鉄道などの流し撮り
  水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。

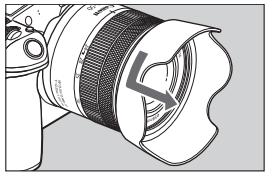
6. フード（別売）

専用のフードは、フレアやゴーストの原因となる不要光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードの取り付け方

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。



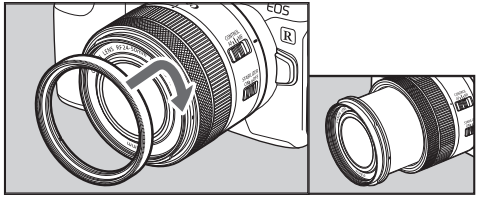
フードの取り外し方

フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。
収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

7. フィルター（別売）

フィルター (Φ58)は、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。



● フィルターは1枚のみ使えます。

主な仕様

焦点距離・明るさ	24-50mm F4.5-6.3
レンズ構成	8群8枚
開放絞り数値	F4.5-6.3（1/3段表示）、F4.5-6.7（1/2段表示）
最小絞り数値	F22-32
画角	水平74°～40°、垂直53°～27°、対角84°～46°
最短撮影距離	0.30m（24mm時）、0.35m（50mm時）
最大撮影倍率	0.19倍（50mm時）
画界	約309×206mm（24mm、0.30m時） 約184×123mm（50mm、0.35m時）
フィルター径	58mm
最大径×長さ	約69.6×58mm（レンズ収納時）
質量	約210g
フード	EW-63C（別売）
レンズキャップ	E-58 II
ケース	LP1014（別売）

主な仕様

- レンズの長さはレンズマウント面からレンズ先端までの寸法です。
  付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 最大径×長さ・質量は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。
- 一部のカメラ*では、このレンズを使った多重露出撮影はできません。
  * EOS R, RP, Ra, R5, R6
- 連写中のズーミングで、歪みが目立つ画像が撮影されることがあります。
- 記載のデータはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEOSホームページ

canon.jp/eos

キヤノンお客様相談センター

0570-08-0002

（つながらないときは 050-555-90002）

受付時間〈平日/土〉9:00 ～ 17:00
（12月31日から1月3日は、休ませていただきます。）

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon

CT1-D255-A 1022Ni © CANON INC. 2022